

令和6年度第5回乙訓地区小中学校使用教科用図書採択協議会 概要

日時：令和6年7月23日（火）

午後1時26分から同4時8分まで

場所：大山崎町立中央公民館別館3階 大研修室

1 開会・挨拶

南会長（大山崎町教育委員会教育長）

2 出席者

(1) 協議会委員（欠席者）

- | | | | | | |
|--------|----|--------|-----|---------|-----|
| ○ 南顕融 | 会長 | ○ 山本真也 | 副会長 | ○ 西村文則 | 副会長 |
| ○ 松本克彦 | 委員 | ○ 流石智子 | 委員 | ○ 中野緑 | 委員 |
| ○ 畠山亮 | 委員 | ○ 福澤秀夫 | 委員 | ○ 京樂真帆子 | 委員 |
| ○ 大下和徹 | 委員 | ○ 盛永俊弘 | 委員 | ○ 吉川栄一 | 委員 |
| ○ 宮本佳子 | 委員 | ○ 湊田瑞希 | 委員 | ○ 堀田守人 | 委員 |
| ○ 野田昌之 | 委員 | ○ 密谷由紀 | 委員 | | |

(2) 研究員

代表研究員及び市町（総括）指導主事20名

(3) 各市町教育委員会等事務局

向日市 1名

吉尾学校教育課主任

長岡京市 2名

渡邊学校教育課主幹兼学校教育係長、西村学校教育課主査

大山崎町 4名

浅田教育次長、吉田学校教育課長、江畑学校教育課主任、

浅野学校教育課主任

オブザーバー

京都府乙訓教育局 渡邊企画教育課長

3 議題 調査研究の最終報告

各教科の代表研究員及び指導主事が調査研究の最終報告を行った。

(以下、質疑応答及び意見。質疑を「○」、応答を「→」、意見を「◎」で表す。)

① 国語

【国語】

- 三省堂の思考ツールについて、他の教科でも使われているが、国語で使うのもいいのではないかと感じる。また、「学びの道しるべ」は、段階的に考えることが丁寧に示されていると感じる。
- 思考ツールについては、取り入れて授業を展開している。様々な思考ツールがあるので、書いてある通り進めるのではなく、違うツールでも使うことができる。

- 光村図書出版の教科書について、特徴はどうか。
- 個々の学びを進めていく場合や、授業を展開していくなかで指導者の工夫のしどころがあるので扱いやすいと考えている。

- 古典をわかりやすく説明していたり、書籍の紹介が多い発行者はどこか。
- 古典については、発行者によって多い少ないはあるものの、中学生レベルで紹介できる教材は限られるので、およそ同じような教材である。書籍の紹介については、東京書籍と光村図書出版が多い。

- 辞書は生徒が個人で買って持っているのか、それとも持っていない生徒もいるのか。教科書の資料は充実していた方がよいのか。
- 生徒が国語辞典等を購入して持ってくることは、おそらくどの学校でもしていない。授業で漢和辞典を引くことがあるので、どの学校も図書室に1クラス分の辞書を用意している。資料については、1年生で国語便覧を購入している。教科書の教材に関連しているという意味では教科書の資料が使いやすいが、満遍なく掲載されているという点では、国語便覧を使うことが多いと考える。

【書写】

- ◎ 光村図書出版は半紙大のお手本があり、机の上には置きにくいですが、なぞり書きや字の大きさをイメージするのに使うなど、活用の幅が広がる。

- ◎ 光村図書出版は、楷書と行書の両方を同じ課題で掲載しており、比較することができる。

② 社会

【歴史】

- 二次元コードの活用について、中間報告以降に議論されたのか。

→ 二次元コードが掲載されていない発行者や、掲載されているが発行者のホームページにリンクする発行者があり、活用の幅という意味では限られるという意見があった。

【公民】

- 各発行者の二次元コードを用いて活用できるコンテンツについて、発行者ごとの特徴はあるのか。
- ほぼすべての発行者において動画コンテンツが視聴できるが、「NHK for School」にリンクを貼っている発行者が多かった。東京書籍では、見開きごとに二次元コードが示され、関連するオリジナルの動画にアクセスできるようになっている。

【地図】

- ◎ 帝国書院の地図は活用しやすい工夫が多く見られ、歴史的事象や防災の拠点、地形とまちづくりの様子など、他分野と関連付けた工夫が多くみられる。

③ 数学

- 二次元コードについて、リンク先のクオリティはどうか。二次元コードの量と質について、どのように考えるか。
- 発行者によっては、問題・ヒントというように階層を追って二次元コードが多く掲載されている場合もある。各発行者によって、課題の捉え方が違うので、それぞれの考え方に基づき掲載されている。

- 二次元コードの活用について、東京書籍は、課題を解くときに段階的に式を展開していくという方法であり、答えがすぐに出ないことが工夫されていると感じたがどうか。
- ご指摘のとおり、東京書籍はヒントが段階を追って出るように工夫されている。他の発行者も同様の手段を用いているが、分量でいうと東京書籍は多い印象がある。

- 苦手な生徒が多い図形分野において、より丁寧な発行者はどこか。
- 図形におけるアニメーションの力は大きいと考えており、各発行者ともに取り組んでいるが、啓林館や東京書籍については、簡単に答えまで見せず、途中で立ち止まって考えさせようとする工夫があると感じる。

④ 理科

- 啓林館は、コラムを活用して防災・減災教育を掲載している。コラムを活用して、学びを進める仕組みがある発行者はあるのか。
- 防災・減災教育は、すべての発行者において取り扱っており、是非とも教科書で扱っていききたい内容である。特段どの発行者が良かったという意見は、研究

員からは出ていない。

- 実験や観察がどこまで定着できるのかという部分の工夫や、課題の有用性についての評価はどうか。
- 啓林館は、二次元コードを読み取ると、学んだ用語を振り返る選択問題や動画を見て答える問題があり、理解を深められるように工夫されている。
- 軽量化と内容の充実は、トレードオフの関係にあると考えるがどうか。
- 各発行者とも軽量化が図られている。Web コンテンツを活用することで紙面上に示す内容が減ったと考えられる。また、付録を割愛することで軽量化が図られていると推測している。しかし、軽量化を図ることで減った内容が Web コンテンツでほぼ補充されていることを考えると、質の低下に結びついているとは考えていない。
- プログラミングに関して有用性があるテキストはあるのか。
- 学校図書は、観察実験ごとの明確なねらいという、指導者にとって分かりやすい表現があり、生徒からみても分かりやすいフォントで示されており評価が高かった。

⑤ 音楽

- 小学校の音楽の教科書と比べて英語の歌詞の曲が減ったと感じたが、見解は。
- 各発行者とも英語の曲を掲載して、国際理解につなげようとしているが、やはり伝統的な音楽が多いという印象がある。
- 指導者が歌いたいと思った曲は、プリント等で取り組むといった工夫はしているのか。
- 生徒が興味を持つ曲があった場合、そのような取り組みを行うことがある。

⑥ 美術

- 教科書の特徴についていかがか。
- 日本文教出版の教科書は、丁寧ですべてが網羅されているという特徴があり、光村図書出版は、生徒の想像力を掻き立てる特徴がある。
- 発行者ごとに教科書の分冊に差がみられるが、使い勝手はどうか。
- 光村図書出版は別冊「資料」があるので、3年間使えるものだと考えている。日本文教出版の教科書は2・3年が上下に分かれているので、題材が多く生徒が参考にできると考えている。

⑦ 保健体育

- 大日本図書の教科書について、前回の検定の教科書なのか。

- 現在使用している教科書を令和7年度以降も継続して発行すると伺っている。
- 教科書の内容と二次元コードの連携はどうか。
- 東京書籍は教科書の内容がシンプルであり、発展的な内容は二次元コードのリンク先に含まれる。
- 性の多様性に関して、教科書で使われているイラストにおいて、男女のバランスなどはどうか。
- どの発行者においても、配慮がされていることを確認している。

⑧ 技術・家庭

- 教育図書の教科書が重い理由として別冊があることが挙げられるが、他の発行者は別冊の内容が教科書に含まれているという理解でよいか。
- 必要な内容はすべての教科書で取り扱われている。教育図書は実習室などに行く際、教科書全部でなく別冊だけを持っていくような使い方を想定していると思われる。なお、重さの違いは、紙の質が異なるものを使用されているからである。

⑨ 外国語（英語）

- 光村図書出版は登場人物が3年間をとおして成長していくストーリー仕立てとなっているが、生徒にとって魅力となるか。
- 学校行事や学校生活をとおして生徒たちが学びながら登場人物とともに成長するというストーリーは独特の編成であり、研究員のなかでも良いという意見が出ていた。
- 現在使用している NEWCROWN について、乙訓の生徒の実態との関係はどうか。
- 現在使われている題材やテーマについて、引き続き採用されている部分が多いと考えている。また、内容理解にとどまらずもう一步踏み込んで考えることができる点は、NEWCROWN の良さであり乙訓の生徒の実態に即していると考えている。

⑩ 道徳

- 従来から道徳ノートを使っていることから優位性があると考えているが、他の発行者においても二次元コードを活用して道徳ノートと同じような効果が出る仕組みもあると考えているがどうか。
- 資料についての二次元コードがほとんどだったと考えている。別冊になることで、振り返りや積み上げがし易い点に意義があると考えている。